

CATCH UP!! HPV ワクチン接種

接種無料



HPV ワクチンは種類によって決められた間隔を確保しつつ、同じワクチンを合計3回接種する必要があります。対象の方には、順次、予約票を送付します。

接種対象

- ① 過去に HPV ワクチンを合計3回接種していない方
(平成9年4月2日生まれ～平成18年4月1日生まれの女性)
※令和4年4月から令和7年3月31日までの3年間、公費で接種できます。
- ② 小学6年生 ▶ 高校1年生相当の女子

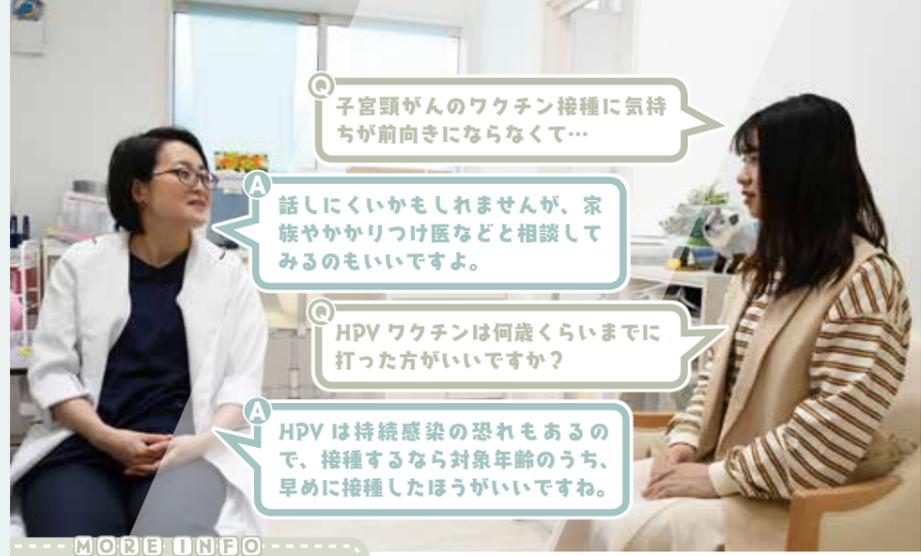
HPV ワクチン接種ができる町内医療機関

下記の町内医療機関で HPV ワクチンを接種できます。接種には、予約が必要な医療機関もあります。

ばんの小児科	393-3000
菰野町菰野 2268-5	
あそクリニック	394-5577
菰野町潤田 2150-3	
服部内科	394-7000
菰野町潤田 4116	
Iクリニック	391-0555
菰野町潤田 1198-1	
内田クリニック	399-2800
菰野町小島 1157	
おおた内科循環器科	399-2212
菰野町田口新田 2909-5	
ひとみウィメンズクリニック	327-5400
菰野町大羽根園並木通り 10-1	

▶ 要予約
※上記以外の県内医療機関でも接種可能です。

CHECK ▶ お問い合わせ
子ども家庭課 子育て支援係
TEL 391-1124 FAX 394-3423



子宮頸がんのワクチン接種に気持ちが前向きにならなくて…

話しにくいかもしれませんが、家族やかかりつけ医などと相談してみるのもいいですよ。

HPV ワクチンは何歳くらいまでに打った方がいいですか？

HPV は持続感染の恐れもあるので、接種するなら対象年齢のうち、早めに接種したほうがいいですね。

MORE INFO

子宮頸がん検診

町では、子宮頸がん検診など各種がん検診の案内を対象者に送付しています。検診の受診には、お申し込みが必要です。

CHECK ▶ お問い合わせ
健康福祉課
健康づくり係
TEL 391-1126
FAX 394-3423



検診は大事

HPV ワクチンのキャッチアップ接種をスタートしました。キャッチアップ接種では、小学6年生から高校1年生相当の女子に加え、平成25年から令和3年に接種できなかった方を対象にしています。HPV ワクチンを接種することで生まれる有効性とリスクをしっかりと理解し、ご家族の皆さんなどと話し合い、

自分の身体について自分で考える。永く健康でいるためにも、子宮頸がんを含め、この機会に自分の身体を見つめ直してみませんか。

現代の医療技術では、子宮頸がんは早期発見し、治療を受ければ、命を落とさずに治すことができる病気です。そのため、20歳以降の女性は2年に1度、子宮頸がん検診を受けることが推奨されています。ワクチン接種の有無に関わらず、20歳になったら2年に1度は必ず子宮頸がん検診を受けましょう。

子宮頸がん検診の必要性

HPV ワクチンの接種を検討してください。

MORE INFO

女性のための健康相談と健康講座



子宮などを正しい位置に保つ効果がある骨盤底筋エクササイズ

健康相談では、こころや身体のことなどについて助産師、保健師、管理栄養士が相談に応じます。健康講座では、骨盤底筋エクササイズや女性に関する講話を行います。

利用無料



Let's Exercise

※開催日程や詳細に関してはお知らせ版でご確認ください。

医療技術の進歩や健康意識の高まりによって平均寿命が年々延びている日本。その一方で、心疾患や脳血管疾患、肺炎といった死因を抑え、永年、日本人の最も多い死因が「がん(悪性新生物)」です。そのがんの中でも、女性のみがかかる子宮頸がんという病気を皆さんは知っていますか。

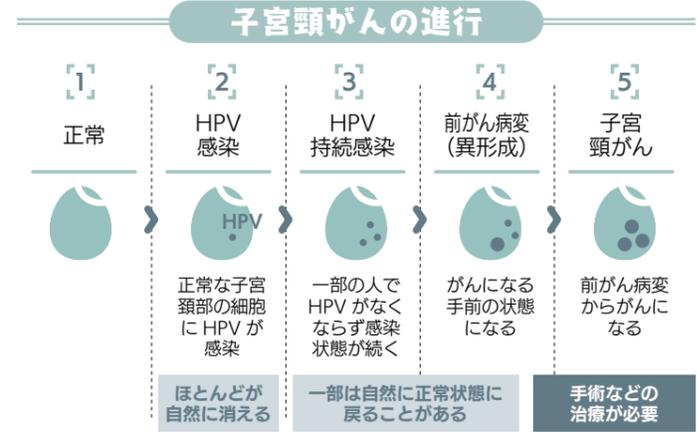
子宮頸がんは女性特有の病気であるものの、感染は主に性的接触によって起こり、女性の多くが一生に一度は感染すると言われています。そんな身近に潜む子宮頸がんのリスクとともに、令和4年度から開始したHPV ワクチンのキャッチ

自分自身の身体を考える

アップ接種についてお伝えします。今回の特集を契機に、ご家庭で子宮頸がん予防や自分の身体について検討する機会にいただければと思います。

子宮頸がんのリスクを知る

子宮頸がんは、子宮の頸部という子宮の出口に近い部分にできるがんです。子宮頸がんになる女性は、毎年約1.1万人にもなり、さらに毎年約2900人の女性が子宮頸がんによって亡くなっています。世代別に見ると20歳代の若い世代の罹患が増加傾向にあり、死亡者数では39歳以下で年間約150人、44歳以下で年間300人の女性が子宮頸がん



数年～十数年で進行

子宮頸がんのほとんどは、ヒトパピローマウイルス(HPV)というウイルスの感染で生じます。HPVは、感染しても炎症反応がないため、自覚症状がなく、ほとんどは自然に消えます。しかし、一部のHPVは持続感染し、数年から十数年かけて前がん状態となり、やがて子宮頸がんになります。HPVは、一度感染すると潜伏し続ける可能性もあり、感染しないためのHPV ワクチンを早めに接種することが大切です。ワクチン接種後に報告された症状等を要因として、接種が控えられていたこともありましたが、令和3年11月にHPV ワクチンの安全性が改めて確認され、ワクチンの有効性が認められたことから、今年度、



INTERVIEW
先生に聞きました
ひとみウィメンズクリニック
はっとりひとみ
服部日東美院長

HPV ワクチンの接種は、妊娠前から女性の身体を気遣うプレコンセプションケアのひとつです。自分を大切にするためにも正確な情報を得て、ワクチンの接種を検討しましょう。自分はまだまだ大丈夫と思って、ワクチン接種を先延ばしにしないように心掛け、計画的な接種をお勧めします。